Hirata Transport Co.,Ltd.
平田運送株式会社

環境経営レポート

（対象：2022 年　8 月　1 日 ～ 2023 年　7 月　31 日）

平田運送　株式会社

発行日　2023 年 9 月 30 日

たいせつにします プライバシー
20001383(07)

安全認定
安全性優良事業所

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
®環境省
エコアクション21
認証番号0008864

環 境 経 営 方 針

経営理念

1. 私たちは「喜んでさせて頂く感謝の心」を忘れず、地域社会に求められる優秀な企業作りを目指します。
2. 私たちは、お客様の物流ニーズに的確に対応できる「提案型物流パートナー」を目指します。
3. 私たちは、自分の仕事に「天職発想」で取り組み、日々ベストを尽くして人間性豊かな集団を目指します。

環境経営方針

当社は、一般貨物自動車運送業、倉庫業　を通じて、
自主的・積極的に環境経営に取り組み、環境負荷の継続的な削減に
取組むために次の通り環境方針を定めます。

1. 環境に経営を位置付けて環境経営推進をめざし、経営における課題とチャンスを明確にして環境への取り組みに反映させます
2. 電力消費による二酸化炭素排出量の削減
3. 車両運行に伴う燃料消費による二酸化炭素排出量の削減
4. 廃棄物の削減、再使用、再生利用の推進
5. 水資源の節減
6. 化学物質の適正管理
7. 業務上必要な調達品のグリーン購入
8. 環境に配慮した事業活動の推進
9. 環境関連法規制や、環境への取り決め事項を遵守します

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な
改善に努めます。

本方針を全従業員に周知徹底します。

2012年　6 月　1 8 日 制 定
2016年　9 月　1 8 日 改 定1
2019 年 10 月　10　日 改 定 2
2021 年 10 月　14　日 改 定 3

平田運送 株式会社

代表取締役

平田　真

１．組織の概要

（1）事業所名

社名　　平田運送 株式会社

代表取締役　　平田　真

（2）所在地

本社　（登記）　　大阪府大阪市中央区上町１丁目５番１９号

本社・高井田営業所　　大阪府東大阪市川俣１丁目９番１０号

（3）環境保全関係の担当者連絡先

環境管理責任者　　国安 克也　　（　倉庫部　）

担当者　　若江 忠夫　　（　企画開発部　）

連絡先　電話：06-6784-0150　　ＦＡＸ：06-6784-0135

（4）事業内容：　一般貨物自動車運送業　倉庫業

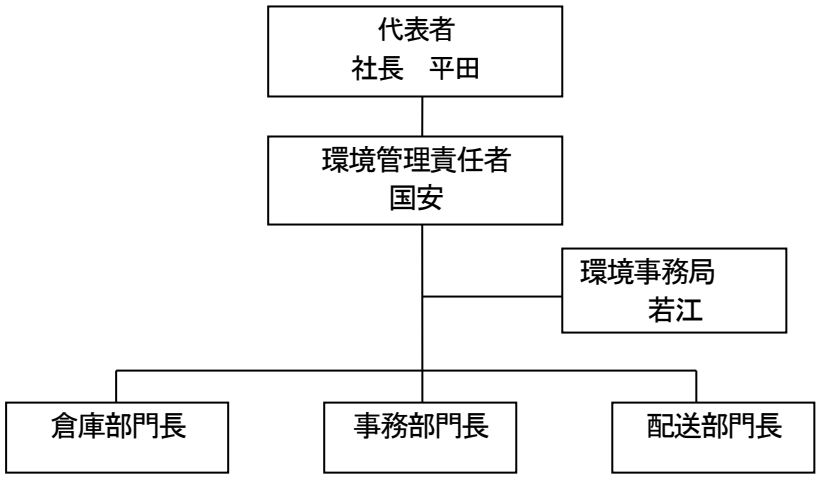
（5）事業規模　　40,089 万円（2022 年度）

製品取扱量

	高井田営業所			
従業員（人）	36 人			
延べ床面積（ｍ２）	3774.75　㎡			

（6）事業年度；　2022 年　8 月　1 日　～2023 年　7 月　31 日

（7）組織図



２．認証登録の対象範囲・活動

（1）認証登録範囲

関連事業所；　平田運送株式会社　高井田営業所

対象事業活動；　一般貨物自動車運送業、倉庫業

（2）レポートの対象期間及び発行日

1） 対象期間；2022 年 8 月 1 日 ～ 2023 年 7 月 31 日
2） 発行日； 2023 年 9 月 30 日

3．環境経営目標及び実績

(1) 中期環境経営目標

2017 年度(2017 年 8 月～2018 年 7 月)を基準年に中期環境経営目標を策定した。

電力の CO_2 排出係数は 2020 年度日本テクノ㈱を採用した。

項　目		基準年 2017 年 8 月 ～2018 年 7 月	2021 年度	2022 年度	2023 年度
		基準年度	目標 / 基準年度比	目標 / 基準年度比	目標 / 基準年度比
電力の CO_2 排出量削減	kg- CO_2	66,385	63,730	63,066	62,402
	比率（%）	100	−4%	−5%	−6%
自動車燃料の CO_2 排出量削減	kg- CO_2	311,863	299,388	296,270	293,151
	比率（%）	100	−4%	−5%	−6%
CO_2 排出量 合計	kg- CO_2	391,008	375,367	371,457	367,547
	目標／基準年度	100%	−4%	−5%	−6%
一般廃棄物 排出量削減	kg	47,341	45,447	44,974	44,501
	比率（%）	100	−4%	−5%	−6%
産業廃棄物 排出量削減	kg				
	比率（%）				
水使用量削減	m^3	366	351	348	344
	比率（%）	100	−4%	-5%	-6%
グリーン 購入比率向上 （主に事務用品）	グリーン購入 総購入額+	30%	34%	35%	36%
事業活動 による環境改善	軽油の燃費を対象とする	5.83km/L	6.06	6.12	6.18
	比率（%）	100	+4%	+5%	+6%

(注1)　電力の CO_2 排出係数；　0.485kg- CO_2/kwh　2020 年度　日本テクノ㈱　調整後

(注 2)　産業廃棄物排出量等は、原紙の断裁時に出る 紙出(断裁時に出る端切れ）を再資源化のために有価物として売却している。詳細は
【 3.1 一般用_2017 年版_環境への負荷の自己チェック表 】に記載している。

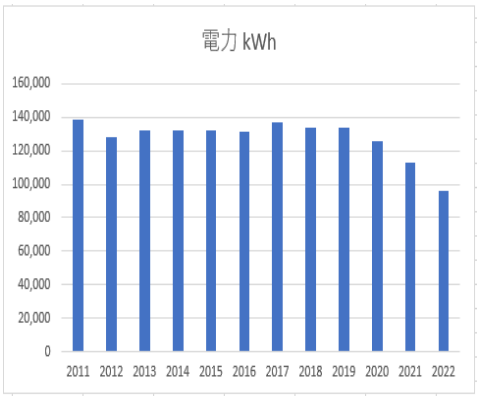
4． 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組み

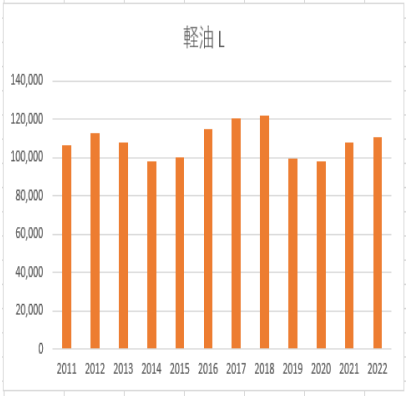
（1）当年 2022 年度の環境経営活動計画の取組結果

項　目		基準年 2017 年 8 月～2018 年 7 月	2022 年度 2022 年 8 月～2023 年 7 月		目標達成度（目標／実績）×100%	
		基準年度	目標	実績 / 基準年度比		
電力の CO_2 排出量削減	kg- CO_2	66,358	63,066	46,402	135%	○
	比率（%）	100	−5%	−30.0%		
自動車燃料の CO_2 排出量削減	kg- CO_2	311,863	296,270	285,049	103%	○
	比率（%）	100	−5%	−8.59%		
CO_2 排出量合計	kg- CO_2	391,008	371,457	331,451	112%	○
	目標／基準年度	100%	−5%	−15.2%		
一般廃棄物排出量削減	kg	47,341	44,974	12,182	369%	○
	比率（%）	100	−5%	−74.2%		
産業廃棄物排出量削減	kg	—	—	—	—	—
	比率（%）	—	—	—		
水使用量削減	m^3	366	348	321	108%	○
	比率（%）	100	−5%	−12.2%		
グリーン購入比率向上（主に事務用品）	グリーン購入 総購入額	30%	35%	49%	140%	○
事業活動による環境改善	軽油の燃費を対象とする	5.83km/L	6.12km/L	5.54km/L	90%	×
	比率（%）	100	+5%	−4.9%		

注1)　電力の CO_2 排出係数；　0.485kg-CO2/kwh　2020 年度　日本テクノ㈱　調整
注2)　グリーン達成度計算式　　49%-35%＝14%増加した割合
（14%÷35%）×100＝40%増加率
注3)　燃費目標達成度計算式；　6.12÷5.54＝1.10　1.10×100＝110%
目標に対して 10%の悪化　100-10＝90%

電力と軽油の使用履歴





（2）当年 2022 度の活動計画及び取組計画の評価

目標項目	取組計画	達 成 状況	責任者	「活動計画取組結果」の評価
電力削減	冷暖房温度の管理	○	事務部門長	取り組み計画は確実に実行されている。 倉庫内の照明を LED に交換したことでかなりの電力削減になった。 結果として累計目標は達成している。
	空調機のフィルターの定期的な清掃・交換等、適正に管理	○		
	事務室他の照明は、昼休み、残業時等、不必要なものは消灯	○		
	倉庫内の照明をLED照明に交換	○		
	CO_2排出量削減	○		
自動車燃料削減	各ドライバー　燃費表の作成	○	配送部門長	目標は達成しているが、燃費が悪化していると思います。基準年よりドライバーが減り、トラックの稼働台数も減った為、トラック 1 台に乗せる荷物が増えた事に加え、平ボディ車が減り、ウィング車が増えた事も原因の一つだと思います。
	ドライブレコーダーにて各ドライバーの運転状況の管理	○		
	アイドリングストップ	△		
	タイヤの空気圧やオイル量を定期的に確認し、適正値を保つ	○		
	CO_2排出量削減	○		
廃棄物削減	会議用資料や事務書類の簡素化	○	倉庫部門長	昨年の審査時に、「廃棄物の量が実際より多いのではないか」との指摘を受け、算出方法を変更した。 昨年までは　20ℓ ゴミバケツ 1 杯＝20 ㎏として算出していたが、本年度より廃棄するワンプ（断裁する紙の包装紙）の量を算出する事にした。
	ミスコピーを防止する	○		
	裏紙を可能な限り利用するよう工夫	○		
	紙類・ビニール・缶・ペットボトルを分別し再生可能料を増やす	○		
	廃棄物量の削減	○		
化学物質の適正管理	預かり品 保管と運搬のみ	○		――――――――
水使用量削減	洗車時等に節水を心がける。	○	事務部門長	30 ㎥を超えた月が一度も無いので、節水の意識が行き渡っていると評価出来る。
	節水ラベルの貼付	○		
	総排水量削減	○		
グリーン購入	事務用品等は環境ラベル認定等製品を優先的に購入	○		コロナ対策を行いながら、目標達成しているのは、評価出来る。
事業活動での環境改善	・エコドライブ遵守 ・配送ルートの効率化 ・積載効率の向上 ・燃費の向上	×	事務局長	仕事量の増加と、燃費は反比例する物なので燃費の悪化は理解できる。基準年はコロナ前でコロナ禍の昨年度までとは、仕事量が違うため、比較参考にはならない。来年度以降は、コロナが明けた本年度を基準とした、新たな目標を設定し、継続的な改善に努めて欲しい。

評価法は以下の通りです。
○：取り組んだ
△：部分的に取り組んだ
×：取り組めなかった

（3）次年度の取り組み計画

目標項目	取組計画	追加したい取り組み
電力削減	冷暖房温度の管理	作業時間の短縮化を徹底し、リフトやエレベーター、照明等の使用時間を減らす事で、電力を削減する。
	空調機のフィルターの定期的な清掃・交換等、適正に管理	
	事務室他の照明は、昼休み、残業時等、不必要なものは消灯	
	省電力ＰＣやLED照明の導入	
	CO_2排出量削減	
自動車燃料削減	各ドライバー　燃費表の作成	エコ運転の徹底についてさらなるドライバー教育を実施する。
	ドライブレコーダーにて各ドライバーの運転状況の管理	
	アイドリングストップ	
	タイヤの空気圧やオイル量を定期的に確認し、適正値を保つ	
	CO_2排出量削減	
廃棄物削減	会議用資料や事務書類の簡素化	なし
	ミスコピーを防止する	
	裏紙を可能な限り利用するよう工夫	
	紙類・ビニール・缶・ペットボトルを分別し再生可能料を増やす	
	廃棄物量の削減	
水使用量削減	洗車時等に節水を心がける。	なし
	節水ラベルの貼付	
	総排水量削減	
グリーン購入	事務用品等は環境ラベル認定等製品を優先的に購入	なし
化学物質の適正管理	預かり品 適正管理と、運搬のみ	なし
事業活動での環境改善	・エコドライブ遵守 ・配送ルートの効率化 ・積載効率の向上 ・燃費の向上	エコ運転の徹底についてさらなるドライバー教育を実施する。

5．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

（1）環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規制等の名称	該当する要求事項（対応すべき事項）	関連条例等による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格				担当部署	遵守評価	
					許可	届出報告	資格	届出先		証拠	判定
廃棄物処理法	・委託基準:一廃収集業者の許可の確認	―――――	一般廃棄物(かみくず、繊維くず、木くず、生ごみ等)	・3 回/週	―	―	―	―	倉庫部門	―――	○
騒音規制法	・特定施設の届け出	条例による特定施設　空圧機	2.2KW（適応外）	・新設/変更時　(3.5KW を超える場合)	―	―	―	―	倉庫部門	―――――	○
	・地域別騒音基準の遵守			・異常音の日	―	―	―	―		―――――	
使用済自動車再資源化法	・フロン類の適切な処理	――	廃自動車	廃棄時 修理時	―	―	―	―	配送部門	ディーラーが処理	○
自動車 NoxPM 法	・自動車排ガス低減(特定事業者)	・指定区域　・周辺区域	トラック	車検時	―	○	―	知事	配送部門	流入ステッカー貼り付け	○
消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可申請	火災予防条例	―――――	・定期点検 ・保安検査	○	○	―	消防署	倉庫部門	・届け出書 ・定期点検記録等	○
	・危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届け出										
道路運送車両法	保安基準、点検・整備	―――――	保有車両	整備記録	―	―	―	―	配送部門	車検証	○
道路交通法	過積載、停車、駐車	―――――	―――――	整備記録	―	―	―	―		ドライブレコーダー	○
グリーン購入法	環境に優しい物品を優先的に購入する。	―――――	グリーン購入法特定調達物品		―	―	―	―	事務部門	購入記録	○
下水道法	(点検義務)法令遵守	―――	―――――	少量不適用	―	―	―	―	―――	―――――	―
プライバシーマーク制度	個人情報について適切な保護措置を講ずる	―――――	―――――	2 年に一度更新	○	○	―	―	事務部門	認証取得	―
フロン排出抑制法	業務用エアコン、冷蔵・冷凍機器の廃棄時のフロン取扱い規制	―――――	エアコン 7.5kw 未満	廃棄時	―	―	―	―	事務部門	登録業者へ委託	○
	点検の実施	―――――	エアコン 7.5kw 未満	3 ヵ月に 1 回以上管理者自身での点検（点検者の定めなし）	―	―	―	―		―――――	○

（2）違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去３年間以上ありません。
法規の遵守状況をチェックし、問題がありません。

6．代表者による全体の評価と見直しの結果

（環境経営目標及び環境経営活動計画の達成状況）

・達成した項目と達成できた理由

達成項目

＊電力の CO_2 排出量削減	135%	達成
＊一般廃棄物　排出量削減	369%	達成
＊自動車燃料の CO_2 排出削減	103%	達成

達成理由

＊　昨年 5 月に倉庫の水銀灯を全て LED 照明に交換した結果、大幅な電力削減を達成した。
基準年はコロナ前でコロナ禍の昨年度までとは、仕事量が違うため、比較参考にはならない。来年度以降は、コロナが明けた本年度を基準とした、新たな目標を設定し、継続的な改善に努めて欲しい。

・未達成項目とその理由

未達項目

＊事業活動による環境改善（燃費）	90%	未達成

未達理由

＊基準年よりドライバーが減り、トラックの稼働台数も減った。この為、トラック 1 台に乗せる荷物が増え、燃費が悪化していると思います。平ボディ車が減り、ウィング車が増えた事も原因の一つだと思います。その中で、アイドリングストップやソフトな加減速等々、基本的なエコドライブを忘れずに業務に当たって欲しい。

（今後の取組における改善、変更等）

・　環境経営方針

特に改善、変更はない。

・環境経営目標

引き続き未達項目の目標達成に創意工夫、努力する。

・活動計画

「目標項目」「取組計画」共に変更なしで継続。

・環境経営システム全般

引き続き継続。

以上